

児童のWTCを育むアクティビティ

～英語キャンプの事例から～

2021.11.28.

児童英語教育学会 全国大会

昭和女子大学 大学院 博士前期課程

大野 直子

本日の内容

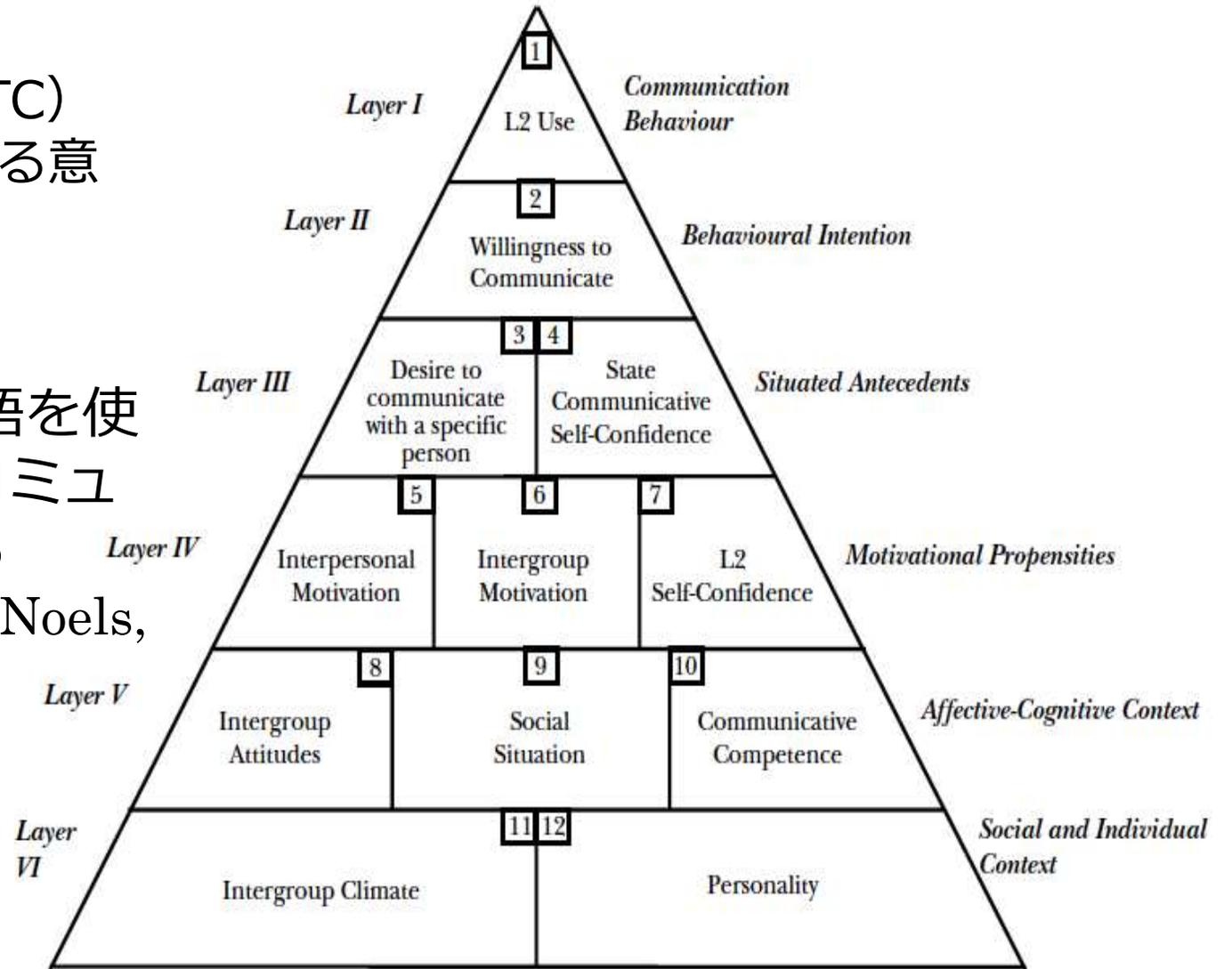
1. 研究の背景
2. 先行研究とResearch Question
3. 研究方法
4. 結果
5. 考察
6. まとめと今後の課題

1) 研究の背景

- ▶ 夏期 6 日間の英語キャンプ参加者91名（小学校 3～6 年生）
- ▶ 2020年からスタートした公立小学校での外国語活動と外国語の目的は「主体的に外国語を用いてコミュニケーションをはかろうとする態度を養う」（文部科学省,2017）
- ▶ 当該キャンプについての研究は武藤（2016）によるキャンプのプログラムのCan- Doリストの研究等がある。
- ▶ 2021年7月JASTEC 全国大会では児童のモチベーションと英語運用能力の変化を調査、今回、児童のキャンプ中のアウトプット量の自己認識およびWTCの変化に影響を与えたアクティビティはどのようなものであったかの検討を行った。

2) 先行研究①

- ◆ Willingness to Communicate (WTC) とは「L2を使用して話をしようとする意欲」(MacIntyre, Clement, Dornyei, & Noels, 1998, p.547)
- ◆ WTCを支える要素として「第二言語を使用する自信」や「特定の相手とコミュニケーションする意思」等がある (MacIntyre, Clement, Dornyei, & Noels, 1998)



Heuristic Model of Variables Influencing WTC
(MacIntyre, Clement, Dörnyei, & Noels, 1998. p.547)

2) 先行研究②

- ◆ 言語学習のプロセスが楽しく、そして満足のいくものであれば、学習者はさらにモチベーションが上がり、WTCが上がる。(MacIntyre et al., 1998)
- ◆ L2WTCを伸ばすためには、異文化接触 (Yashima, 2010) 模擬国連などのグローバルスタディズに参加することが効果的 (Yashima & Zenuk-Nishide, 2008)
- ◆ 協働学習やクリティカルシンキングがWTCを育む (Maftoon & Ziafar, 2013)
- ◆ 目標設定とビジョンを明確にする訓練が効果的 (Munezane, 2015)

Research Questions

- ① 児童のキャンプ中 6 日間のアウトプット量に関する自己認識はどのように変化するか。
- ② キャンプ前、キャンプ直後、キャンプ 5 か月後のWTCはどのように変化するか。
- ③ アウトプット量・WTCの変化をもたらすアクティビティはどのような内容か。

3) 研究方法：参加者

	Total	Male	Female
2019年 キャンプ参加者	91	41	50

- 小学3～6年生
- 日常的に学校外英語プログラムでCEFR A1レベル～A2レベルを学習。
- 海外生活3年以上、インターナショナルスクールに行っている等の児童は省く。

英語キャンプ

- 留学生を中心としたキャンプリーダーと6日間過ごす
- 異文化理解やSDGs等世界の課題を英語で学ぶ
- Don't be afraid of making mistakesというスローガン
- 英語学習を目的としていないため、ターゲットセンテンスの練習等の時間はない



3) 研究方法：実施時期



3) 研究方法：手法

WTC質問紙（1～3回目）

Knell & Chi (2012)による質問紙からスピーキングに関するWTC（9項目）を抽出、翻訳し、児童用に表現をわかりやすくして作成。

■学校などの以下のような場面では、あなたはどのように思いますか？

		したくない	あまりしたくない	してもいい	してみたい	とてもしてみたい
1	グループ活動でほかの生徒たちと英語で話をする	1	2	3	4	5
2	クラスの前に出て英語で発表をする	1	2	3	4	5
3	宿題について、先生に英語で質問をする	1	2	3	4	5
4	手をあげて、英語で質問に答える	1	2	3	4	5
5	授業に参加している外国人の先生と英語で話す	1	2	3	4	5
6	英語劇に出て何かの役をする	1	2	3	4	5
7	なにか待っている間、友達と英語で話をする	1	2	3	4	5
8	英語ゲームをするとき、ルールについて英語で説明をする	1	2	3	4	5
9	英語で何かをする場合、わからないことがあれば英語で聞く	1	2	3	4	5

3) 研究方法：手法

自己認識によるアウトプット量 質問紙 (キャンプ中毎日 午前午後)



??
Day 2

あ まる
当てはまるものに○をつけてください。

		あてはま らない	あまりあて はまらない	まあまあ あてはまる	だいたい あてはまる	あて はまる
1.	In the morning activities, I could use English a lot. 午前の活動でたくさんの英語を使うことができた。	1	2	3	4	5
2.	In the evening activities, I could use English a lot. 午後の活動でたくさんの英語を使うことができた。	1	2	3	4	5

たくさんの英語を使うことができた→

「①あてはまらない②あまりあてはまらない③まあまああてはまる④だいたいあてはまる⑤あてはまる」の5件法で回答

児童を対象としたインタビュー調査

	Total	Male	Female
インタビュー参加者	13	4	9

- キャンプ参加者91名の中から13名を抽出
- 1名30分程度、zoomまたは電話で実施
- 質問内容 1) キャンプ前とキャンプ後間の英語学習で心掛けたこと。
2) 英語学習について思うこと



3) 研究方法：分析手法

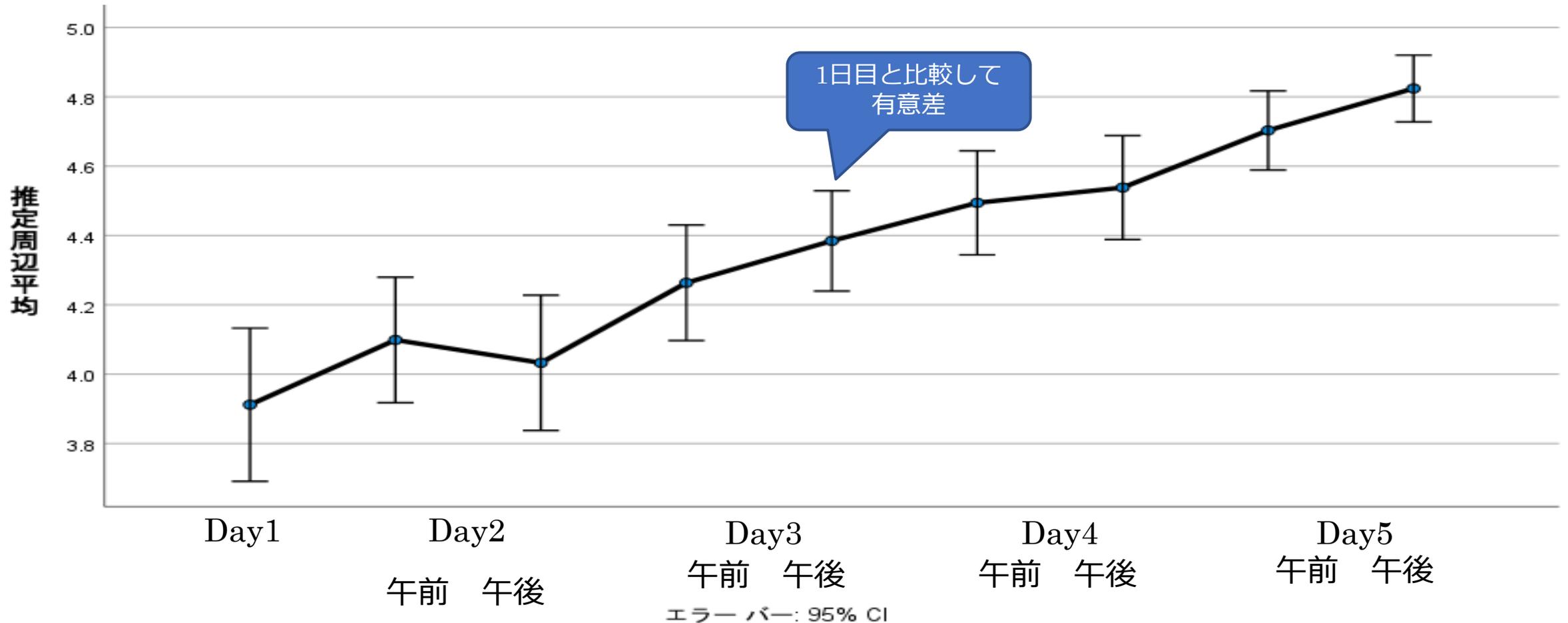
- 自己認識によるアウトプット量、WTCをSPSSで分析
- 児童のインタビューから、キャンプのアクティビティについて語った内容を抽出

4) 結果

RQ①キャンプ中のアウトプット量に関する 自己認識の変化

	平均値	標準偏差
Day1	3.91	1.06
Day2午前	4.10	0.87
Day2午後	4.03	0.94
Day3午前	4.26	0.80
Day3午後	4.38	0.70
Day4午前	4.49	0.72
Day4午後	4.54	0.72
Day5午前	4.70	0.55
Day5午後	4.82	0.46

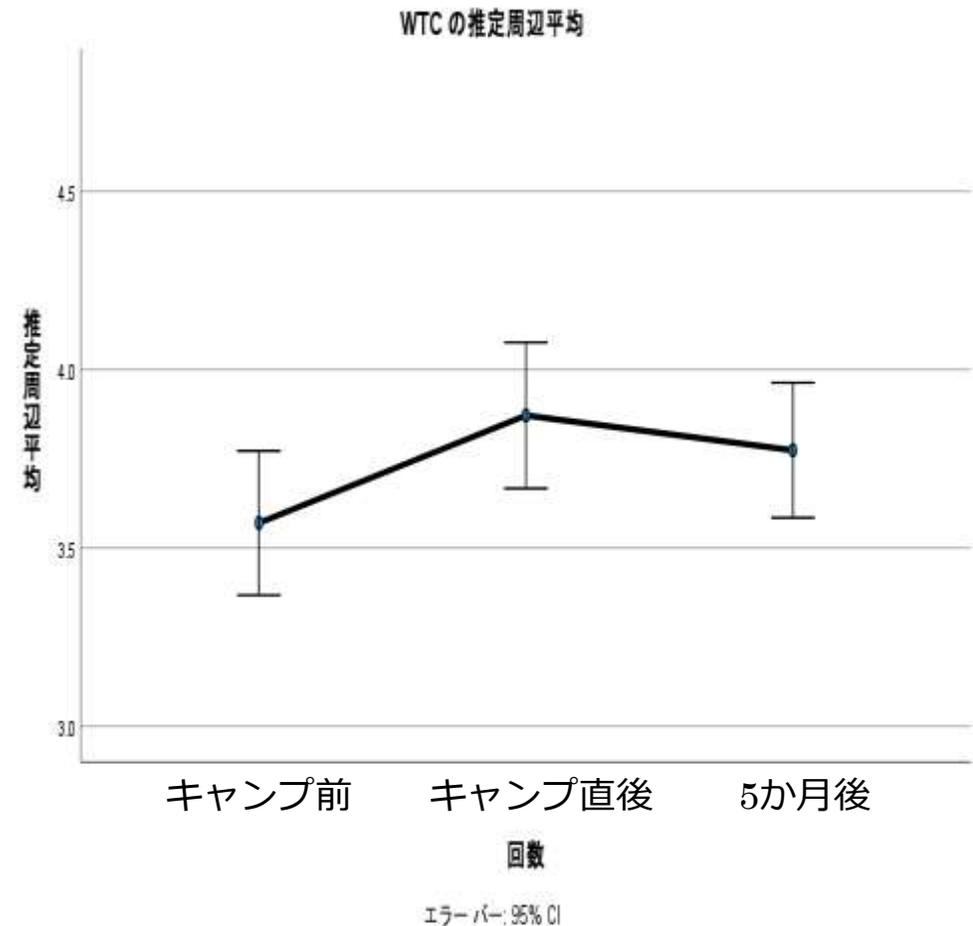
キャンプ1日目と比較して5日間で上昇を示し、特に3日目午後以降から有意差が見られた。



4) 結果

RQ②キャンプ前、キャンプ直後、キャンプ5か月後のWTCの変化

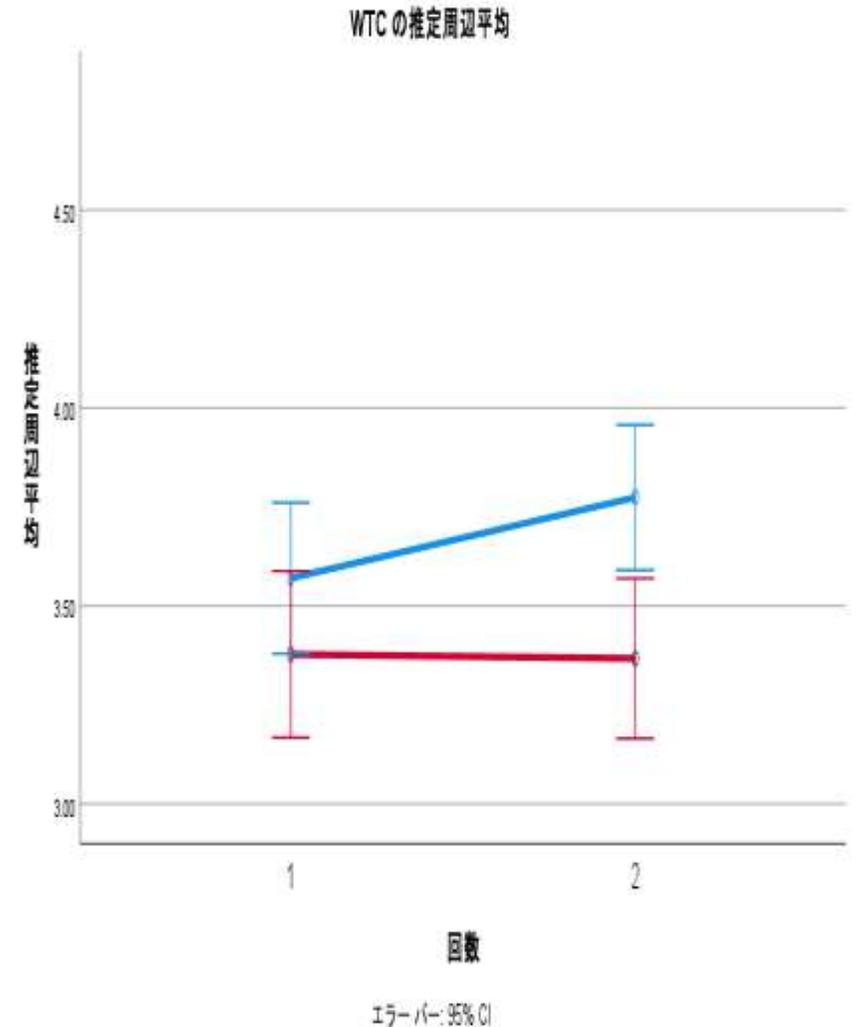
	<i>M</i>	<i>SD</i>
事前 (5月)	3.6	1
キャンプ直後 (8月)	3.9	1
事後 (1月)	3.9	1



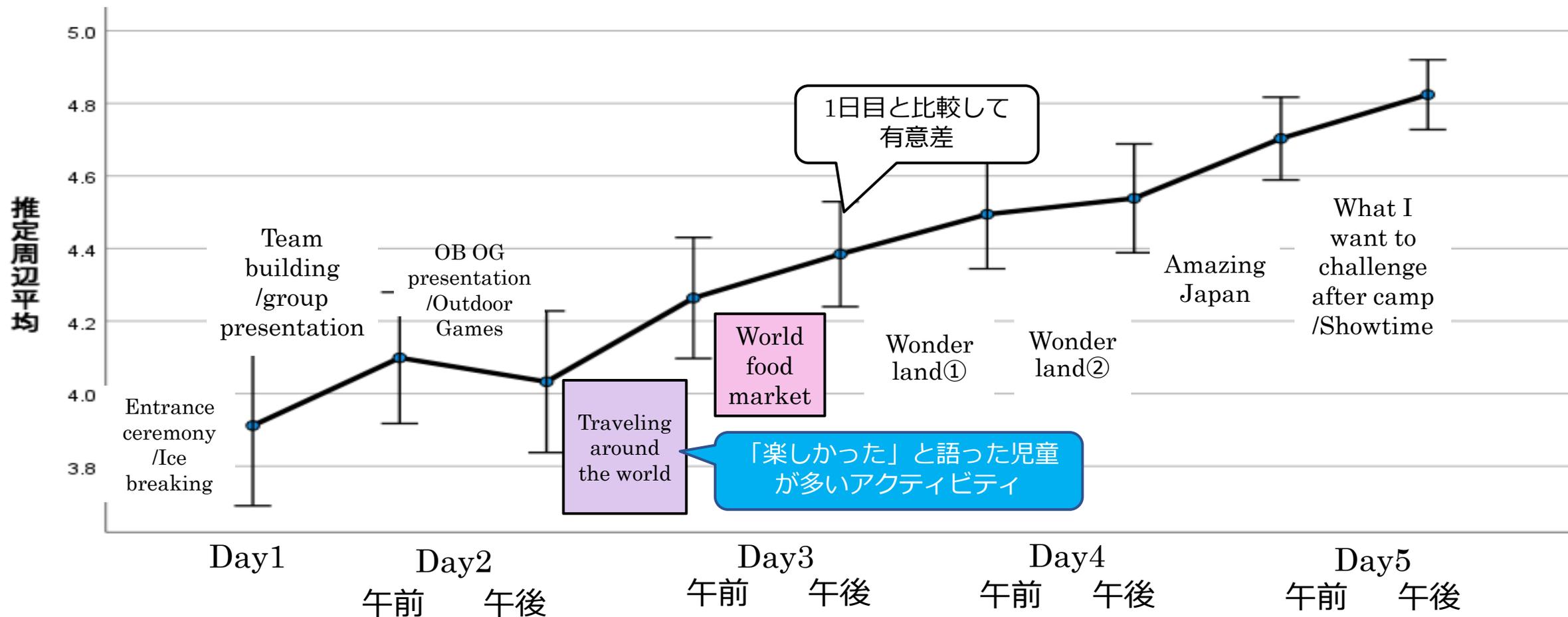
RQ② キャンプ参加者(青)ー非参加者(赤)の キャンプ前、キャンプ5か月後の WTCの変化

	事前		キャンプ直後 (キャンプ参加者のみ)		事後	
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
WTC キャンプ参加者	3.6	1.0	3.9	1.0	3.8	0.9
キャンプ非参加者	3.4	0.9			3.4	0.9

キャンプ参加者 n=91, キャンプ非参加者 n=75



RQ③ 自己認識によるアウトプット量・WTCの伸びとアクティビティの関係



エラーバー: 95% CI

印象に残ったアクティビティ

(インタビュー回答者13名中9名。4名は回答なし)

人数	アクティビティ名	感想
5	Traveling around the world	お金をなんかつかって、なんか買ってみたいのが楽しかった(小6女子) プログラムで大好きだったのは世界旅行で、仮想でインドやベトナムに行くやつです(小6女子) チームで部屋を回って、それぞれの国をまわるのが楽しかった。ずっとやってきたかった(小5女子) キャンプリーダーそれぞれの出身国を海外旅行した気になれた(小6男子) インドネシアのキャンプリーダーからその国の文化を知れてよかった (小6女子)
1	OB OG Presentation	OB,OGの人から、キャンプの後に頑張ったことを聞いたのがよかった (小4女子)
1	Outdoor Games	キャンプでは、外で遊ぶのが楽しかった。サッカーとか。(小4男子)
1	World Food Market	買い物をするゲームが面白かった(小6女子)
1	(本を読むもの)	英語の本をみんなで読むのが面白かった。ローザ・パークスを読んで感動した (小5女子)

Traveling Around the World (3日目午前)

- 児童は15名程度のグループに分かれ、キャンプリーダーの国を模した各部屋を回る
- キャンプリーダーから、各国についてのお話を聞く
- それぞれの国のゲームや歌、ダンスを一緒に体験する
- 世界の国の文化や日本と相違を学ぶプログラム



World food market (3日目午後)

- 1グループ3～4名で活動
- 各グループに渡された買い物リストを持ち、各キャンプリーダーの店を回る
- キャンプリーダーの出身国のおいしい料理を作るために必要なものを買そろえる活動を英語で行う
- お金が足りないときはグループのメンバーで相談し、協力をして値引きをしてもらうよう交渉
- 交渉する際にはキャンプリーダーからタスクが英語で与えられ、それができたら値切ることができる
- Task based language learning (Ellis,2003) に類似した活動



5) 考察

RQ① 児童のアウトプット量はキャンプ初日から上昇を示し、特にキャンプ参加3日後に有意差が現れた。

【児童のインタビューから】

- 最初は不安だったが、だんだんみんなと仲良くなって（英語を）話せて楽しかった。
(小6 女子)
- キャンプ初日は緊張していたが、4日目以降く
らいは、話せるようになった。(小6 女子)



キャンプ全体の設計

Stage 4 (5～6日目) Showing Confidenceステージ

- ・ 自信を高め、自分自身の文化を伝え、夢や目標について発表を行うステージ



Stage 3 (4日目) Taking Initiativeステージ

- ・ SDGsなどの世界の課題を学び、自分の気持ちや考えを伝えるステージ



Stage 2 (3日目) Getting Interested ステージ

- ・ 世界について興味関心を深める活動を行う。キャンプリーダーの国について学んだり、国の文化を体験したりして、視野を広げるステージ



Stage 1 (1～2日目) Ice-breaking ステージ

- ・ 初めてキャンプに来る子どもたちが環境に慣れ、キャンプリーターや他のメンバーと親しくなれるような活動を行うステージ



個別に次の日の目標を設定、キャンプリーターと共有。目標の振り返りも行う。

Ice-breaking ステージ

- 児童はキャンプ中、1グループ5～6名につきキャンプリーダー2名に分かれて活動を行う。
- Ice-breaking ステージでは、キャンプリーダーや同じグループのメンバーと仲間になる活動を行う。
- キャンプリーダーは間違ってもいいので英語で伝えること、わからないときは協力をしあうことなどを児童に伝える
- メンバーで協力しないと達成できないゲーム (River Crossing Game) を行って仲間意識を育てる。



キャンプ3日目 (Getting Interested ステージ) のプログラム



午後 World Food Market

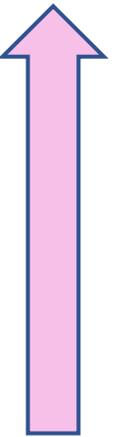
- ・午前中の活動で得た知識を使い、児童が中心となってコミュニケーションを行うプログラム
- ・3～5名の児童だけのグループで各部屋を回る。
- ・児童の英語の発話が多い



午前 Traveling Around the World

- ・各キャンプリーダーの国を模した部屋を回って、各国の文化を学ぶ。
- ・児童はキャンプリーダーの話からインプットを得て、新しい知識を学べるように設計

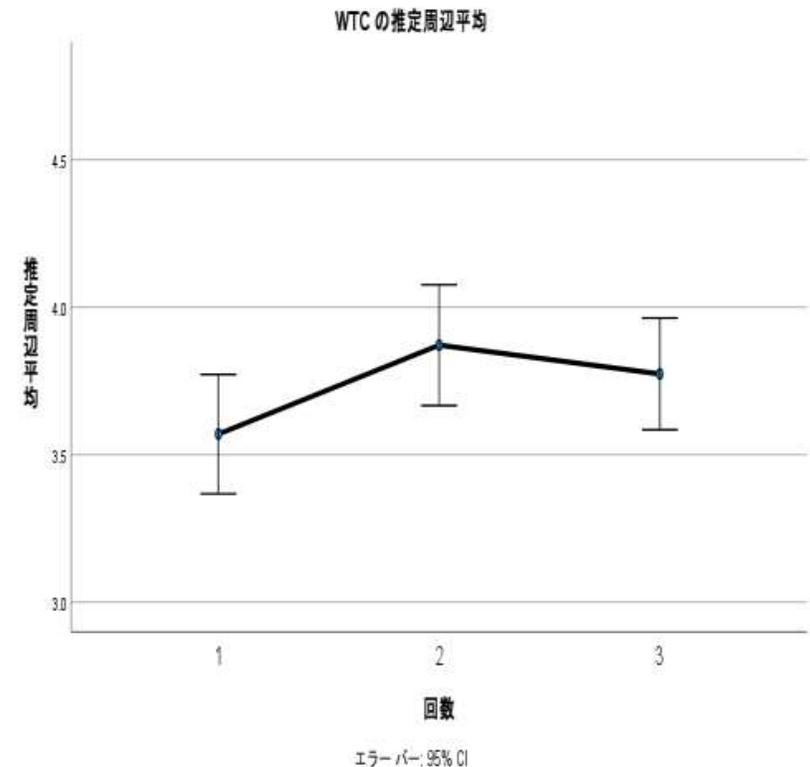
Output



Input

5) 考察

RQ② WTCにおいてはキャンプ参加前からキャンプ直後に上昇を示し、参加4か月後もその上昇を持続する。



キャンプ全体の設計

Stage 4 (5～6日目) Showing Confidence ステージ

- ・ 自信を高め、自分自身の文化を伝え、夢や目標について発表を行うステージ



Output

Stage 3 (4日目) Taking Initiative ステージ

- ・ SDGsなどの世界の課題を学び、自分の気持ちや考えを伝えるステージ



Input

Output

Stage 2 (3日目) Getting Interested ステージ

- ・ 世界について興味関心を深める活動を行う。キャンプリーダーの国について学んだり、国の文化を体験したりして、視野を広げるステージ



Input

Output

Stage 1 (1～2日目) Ice-breaking ステージ

- ・ 初めてキャンプに来る子どもたちが環境に慣れ、キャンプリーダーや他のメンバーと親しくなれるような活動を行うステージ



個別に次の日の目標を設定、キャンプリーダーと共有。目標の振り返りも行う。

日々の目標設定と振り返り

キャンプリーダー: How about tomorrow?

(児童が記入したGoal for tomorrowを読む)

We try to speak only in English with our friends, is that OK?

児童: May...be.

キャンプリーダー: Do you think it's difficult?

児童: It's difficult.

キャンプリーダー: Yes, It's difficult.
But if you try,
you can do it.

児童: OK!



A Star and a Wish

1. What could you do well today?

2. Did you achieve your goal for today? Yes No

3. What is your goal for tomorrow?

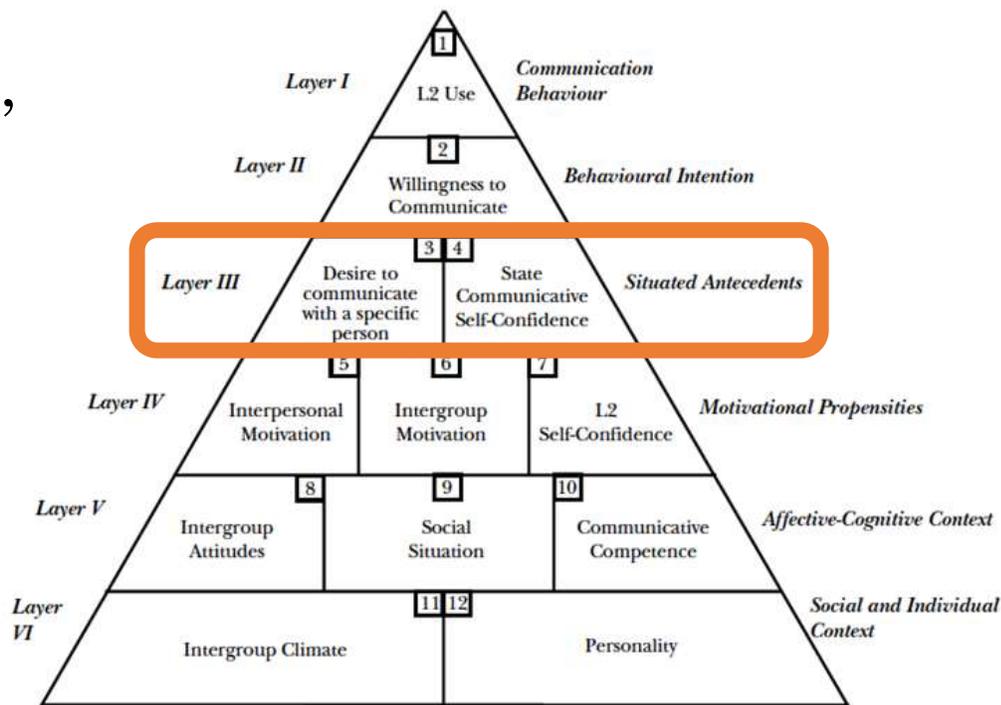
Camp Leader's Message

An illustration of two children, a girl and a boy, smiling. They are positioned at the bottom right of the form, next to a large yellow speech bubble.

5) 考察

RQ③アウトプット量・WTCの変化をもたらすアクティビティはどのような内容か。

- 対話者との関係、その場でのコミュニケーションの自信 (MacIntyre, Clement, Dörnyei, & Noels, 1998)
- 目標設定 (Munezane, 2015) と振り返り
- 異文化に触れる内容 (Yashima, 2010)
- 児童同士の協働学習 (Maftoon & Ziafer, 2013)
- 児童にとって身近で楽しい内容 (MacIntyre, Clement, Dörnyei, & Noels, 1998)
- インプット→アウトプットの設計



Heuristic Model of Variables Influencing WTC (MacIntyre, Clement, Dörnyei, & Noels, 1998, p.547)

まとめと教育への応用

キャンプ6日目

- 異文化に触れる内容 (Yashima,2010)
- 児童同士の協働学習 (Maftoon & Ziafer,2013)
- 児童にとって身近で楽しい内容 (MacIntyre, Clement, Dörnyei, & Noels, 1998)
- インプット→アウトプットの設計

対話者との関係づくり

目標設定と振り返り

アウト
プットの
自己認識
=
自信

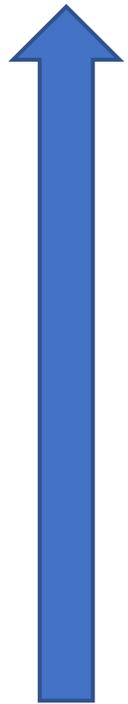
WTC

3日目午前
Travelin
around
world

3日目午後
World Food
Market



キャンプ1日目



今後の課題

- 各プログラム時のキャンプリーダーと児童の詳細なやり取りの検討
- より長期のWTCの変化

参考文献

Ellis, R. (2003). Task-based language learning and teaching. Oxford university press.

Knell, E., & Chi, Y. (2012). The roles of motivation, affective attitudes, and willingness to communicate among Chinese students in early English immersion programs. *International Education*, 41(2), 5.

MacIntyre, P. D., Clément, R., Dörnyei, Z., & Noels, K. A. (1998). Conceptualizing willingness to communicate in a L2: A situational model of L2 confidence and affiliation. *The Modern Language Journal*, 82(4), 545-562.

Maftoon, P., & Ziafar, M. (2013). Effective factors in interactions within Japanese EFL classrooms. *The Clearing House: A Journal of Educational Strategies, Issues and Ideas*, 86(2), 74-79.

参考文献

文部科学省 (2017). 『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm

Munezane, Y. (2015). Enhancing willingness to communicate: Relative effects of visualization and goal setting. *The Modern Language Journal*, 99(1), 175-191.

武藤克彦. (2016). 滞在型外国語プログラムのための Can-Do リストの開発. *人文・社会科学論集= Toyo Eiwa journal of the humanities and social sciences*, (33), 93-112.

Yashima, T. (2010). The effects of international volunteer work experiences on intercultural competence of Japanese youth. *International journal of intercultural relations*, 34(3), 268-282.

Yashima, T., & Zenuk-Nishide, L. (2008). The impact of learning contexts on proficiency, attitudes, and L2 communication: Creating an imagined international community. *System*, 36(4), 566-585.

ご清聴ありがとうございました。

昭和女子大学大学院
大野 直子

11520005@st.swu.ac.jp

